

# 機能食品通信 第14号

発行 (株)機能食品研究所

## 今回のテーマ

- ・ 定食屋のメニューで2分間楽しむ法
- ・ 梅田の就寝中に襲った二人の影とは
- ・ 茶話会の運営をお褒めいただきました
- ・ 痒みの茶話会も盛況でした



機能食品研究所、梅田です。いつもお世話になっております。

皆様から「電車のホームで、『を』の付く駅名がNかMかを見るようになったりしました。」「いつも目を通していますよ。」「いつも楽しみに拝読しています。」「とってお便りをいただきました。とても嬉しいです。

## ■定食屋のメニューで2分間楽しむ法

先日、風食のために『うどん屋』に行こうと会社の近所を歩いていたら、喫茶店の前に『味噌(牛すじ)カレー』という看板が立っていました。

この夏、かき氷用の『味噌味シロップ』という異色の組み合わせを自宅で作って失敗した私にとって、味噌とカレーという異色の組み合わせ

が気になりました。その日は朝から『風食は、うどん』という気持ちで居りましたが、一瞬で味噌カレーの気持ちに書き換わりました。

初めて入るお店なので、座って直ぐに「味噌カレー、1つ。」とオーダーしたい気持ちを抑え、メニューや店内の掲示物にゆっくりと2分間くらい目を通すのが梅田方式。

カレーという事はカツを乗せたバージョンが有るかもしれませんが、他にも頼みたいメニューが有ればカレーのご飯を少なめに買って貰って両方を注文して味わいたいものです。ろくすっぽメニューも見ずにオーダーした後で時間つぶしにメニューを見て「これも食べたかった」と後悔してしまうのは避けたいものです。今回、他にも頼みたいメニューがありました。メニューの丸タイページを使って『味噌(牛すじ)カレー』が紹介されているのを見て、思う存分これを楽しみたい気持ちになり単品のみ注文。(トッピングは存在せず。)

気になるお味ですが、とても美味しかったです。作り方を見ていないので想像して言いますと、牛スジ・モツ・ニンジン等を甘い味噌で煮たものに、薄っすらと舌を感じる程度のカレー粉を混ぜたようなルーでした。具にチクワが入っているのも印象的でした。

私は、味噌カレーを食べながら、漫画『孤独のグルメ(扶桑社)』を思い出しました。スーツ姿の主人公の男性が、見知らぬ場所で見知らぬ店

に入る漫画です。どの話も、まず始めに入るお店を探し、メニューや周りのお客さんの食べているものをみながら何を注文するかを考え、注文したものを「うまい」と食べるという流れです。この漫画を読んでからというもの、お店でのメニュー選びが更に楽しくなりました。

私も、その主人公と同じようにメニュー選びと食事を存分に楽しみ、またあの味噌カシーを食べにこようと思いつつ店を後にしました。

## ■梅田の就寝中に襲った二人の影とは

前号で「007が秘密道具を受け取るシーンが大好きで、私は工学部の野呂先生から研究道具を渡される時に同じ気持ちになっている。」と書きました梅田です。少しだけ、追加のEPソードをお聞きください。

あれは数年前の寒い日の晩の事でした。当時、三重大学の構内に有った会社オフィスでの仕事を済ませ、車で自宅に帰り、愛犬の散歩と夕食を済ませ、暖かい風呂に入って疲れた身体を癒しました。そうしているうちに、深夜23時になったので車で三重大学工学部に向かいました。その日は、野呂先生から「就寝中に測定する装置の試作品が出来たから試して工学部の部屋で使ってみて。」と呼ばれていました。工学部の建物に着き、野呂先生と学生さん4名から機器の説明を受けて機器を装

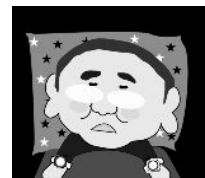
着。そして任務に赴き、華麗に007のように敵と戦うわけでもなくその場の布団で単に寝るだけ」の梅田。

何時間経った頃でしょうか、分厚い扉がガチャリと開き、2名の男性が就寝中の私の枕元にやってきました。男達がしやがみこんで私を覗き込んだ時に私はエイヤツと布団から飛び出て身構える、いや実は男達が私と思った物体は実は丸めた布団で

私は机の陰から躍り出た……という展開は全く無く、学生さんが「梅田さん、朝だよ。」と起こしにきてくれただけでした。もちろん、扉が開く音でスッキリと目を覚まし、笑顔で「おはよう諸君」と言うことも無く、寝ぼけ眼でボーっとしながら学生さんたちに装置を外して貰う梅田私が007なら敵に捕まっています。このように私は戦うヒーローの素質は無いと分かり、自宅では就寝時に警備装置をかける事にしました。

## ■茶話会の運営をお褒めいただきました。 なわかい

茶話会にご参加いただいた方からお褒めのメール・お電話をいただきました。すごく嬉しいので、メールを2通紹介させていただきます。『FAXで申込をした後、間もなく確認書を頂き、また正式に招待状まで頂き、恐縮しています。手間がかかり大変かと思いますが、非常に丁寧な対応敬服に値します。申込をした後、確認書がないのが一般的



ですが、申し込む立場としては、「受け付けてもらった」という安心感があり、大変有難いです。以前、機能食品通信に、情報管理の重要さを書いておりましたが、ここまでキチンと実践している方は少ないと思います。弊社社員にも、好事例として朝会などで紹介したいと思っています。『電車・バスの乗り継ぎから、会場でも色々とお気遣い頂きます、大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。』  
 このようにお褒めのお言葉をいただき、ありがとうございます。スタッフ一同、とても喜んでおります。お時間を割いてお越しいただく様への感謝の気持ちを込めた『おもてなし』の心は、もちろん弊社の臨床試験にご協力をしてくださる被験者さんへの説明資料作りにも活かされております。

FAX:

様



本日は、11月17日(水)の茶話会(音を使ったかゆみ評価方法)のお申し込みFAXをお送りいただき、誠にありがとうございました。

茶話会の詳細なご案内につきましては、11月上旬にお送りさせていただきます。

取り急ぎ、お申し込みのお礼のみで失礼いたします。

株式会社 機能食品研究所  
 〒514-0027 三重県津市大門7-15 津センターパレス4F  
 TEL: 059-253-8091 FAX: 059-253-8092  
 代表取締役社長 梅田幸嗣

お申込書をいただいたら、直ぐにお礼のFAXをします。

【東京からお越しの方】

東京	08:40	新幹線のぞみ
↓		
名古屋	10:24	
近鉄名古屋	10:50	近鉄特急
↓		
津	11:39	
津駅前	11:48	三交バス
↓		
三重会館前	11:54	
↓		
三重会館前	15:50	三交バス
↓		
津駅前	15:58	
津	16:24	近鉄特急
↓		
近鉄名古屋	17:15	
名古屋	17:40	新幹線のぞみ
↓		
東京	19:23	

【大阪からお越しの方】

大阪難波	09:44	近鉄 準急
↓		
鶴橋	09:50	
鶴橋	09:50	近鉄 特急
↓		
伊勢中川	11:12	
伊勢中川	11:15	近鉄 特急
↓		
津	11:25	
津駅前	11:35	三交バス
↓		
三重会館前	11:41	
↓		
三重会館前	15:50	三交バス
↓		
津駅前	15:58	
津	16:21	近鉄 特急
↓		
大阪難波	17:53	

【津駅からのバスについて】  
 津駅の東口改札から出ていただく。左斜め前(バス停「津駅前」)があります。津駅は近鉄・JRが同一の駅ですが、改札は共通です。三重会館前の停留所を降りて目の前が会場(津センターパレス)です。

津駅前発	三重会館前着	行き先
11:25	11:31	片岡団地
11:27	11:33	空港アクセス港(津なぎさまち)
11:30	11:36	緑が丘団地
11:32	11:38	米津
11:35	11:41	警察学校
11:40	11:46	平木
11:45	11:51	柳原車庫前
11:48	11:54	香良洲公園
11:50	11:56	三重会館
11:52	11:58	サンパルー



【お車・飛行機の方】  
 伊勢自動車道 津ICより車で10分  
 津なぎさまち港より車・バスで3分  
 (セントレア港から津なぎさまち港は40分)

ご招待状

様

機能食品研究所、梅田です。  
 このたびは茶話会にご応えいただき誠にありがとうございました。  
 プログラムと交通アクセス方法をお送りいたします。  
 それでは当日、お気を付けてお越しください。



内容：茶話会「かゆみ評価のデモンストレーション」  
 日時：2010年11月17日(水) 12:00~15:00  
 場所：津センターパレス

4階会議室(機能食品研究所オフィスの隣)  
 費用：500円(弁当代含む)  
 講師：三重大学 工学部ナノセンシング研究室  
 准教授 野呂 雄一 先生

当日、参加費用500円(税込)を現金でいただく、その場で領収証を発行いたします。

プログラム

11:30	開場
12:00	野呂先生と食事しながらご歓談
12:45	機能食品研究所から概要説明
13:00	野呂先生のご講演
13:30	種俣(そうは)行動計測機の実演
14:00	フリーディスカッション
15:00	終了



野呂 雄一先生

津センターパレスへのアクセス方法は裏面をご覧ください。



機能食品研究所  
 〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス4F  
 TEL:059-253-8091 info@ksk-lab.co.jp

ご招待状(郵送)は、便利さを考えた構成にしております。  
 更に見やすい内容になるよう、日々研究を重ねております。

# ■痒みの茶話会も、盛況でした。

11月17日(水)に『掻いている時に発生した音を使ったヒトの痒み評価技術の茶話会(技術説明会)』を行いました。

開発者のお一人である、三重大学工学部ナノセンシング研究室准教授 野呂雄一先生に講師と機器のデモンストレーションをしていただきました。



申込FAX用紙の『質問スペース』にお書きいただいた以下の質問への回答を組み込んだご講演内容にさせていただきました。「実施を請け負う施設はどこ?」「実施費用は?」「測定の細かい条件は?」(寝具等)「器材があれば、自宅でも測定出来る?」「防音された部屋じゃないと測定できない?」「測定に適した季節は有る?」(季節変動)「局部・全身など場所別の解析可能?」「痒みそのもの以外の応用はありますか?」(ストレス等)「近日、これらの質問の回答を組み込んだパンフレットを作成しようと思っております。貴重なご質問ありがとうございます。」



ございました。完成しましたらお送りしますのでご興味のある方はご予約ください。

この日、野呂先生がご講演をされた時に冒頭でおっしゃられた言葉が今も心に残っています。「講演の最中でも遠慮無く質問をしてください。後で聞こうと思ってメモとかしておいても、細かい所を忘れてしまいますよね。だから質問したい時に拳手して聞いてください。」という内容です。そして、その方法のおかげで、数多くの質問をいただく事が出来ました(3分に1度の割合で質問いただきました)。

『講演・発表をしながら、その最中に出てくる質問にもお答えする方法』で「ご参加者の皆様との呼吸を合わせられるお姿を見て」私も、お話ししている相手との呼吸を合わせられるようになっていきました。

【news】新聞に『ヒト用 痒み評価装置』のご紹介記事を掲載していただきました。 日刊工業新聞(11月16日 朝刊)、中部経済新聞(11月16日 朝刊)

回覧・印	

最後のページまでお読みいただき、ありがとうございます。差し支えが無ければ回覧いただける幸いです。